

テーマ① 数年前と比べまたコロナ禍を経て、何が変わったか。各事業所の体験を踏まえて実情を情報共有する。

*** コロナ禍で途絶した各機関・職能団体等のネットワークを再構築の動きなど徐々に活性化している現状。**

・青葉区多職種懇親会、職能団体間の連絡会立ち上げ、青葉区ケアマネ連絡会で訪問診療医との意見・情報交換会、青葉区訪問看護連絡会で青葉区包括社会福祉士分科会による「高齢者虐待防止研修」

・MCS、Zoom、画像の共有など、新たな連携方法が広まった。

*** 病院や施設、在宅での医療・介護の現状**

・今も感染対策は続いている。面会は施設ごとに異なるが、制限も続いている。

・薬の流通が滞っている。

・薬で困っているケースに、薬剤師が関わるケースが増えている。

・PT、OT、STのニーズが広がっているが、在籍の把握が出来ない。

・コロナで閉じこもり弱った人が、サービスを使うようになった。コロナ禍で受診を控えた人が病院へ行くようになったのか、がんの人など病気の人が増えた。

・高齢者が多い、ケアマネが足りない、介護サービスが足りない。

・入院前から生活がままならない人が、入院により更に悪化するものの、退院しなければならない状況。

・認知症でマスクが難しい。スキンシップが大切な認知症の方の関りが難しい。

・コロナに慣れてきて怖がらなくなり、家族からの感染が多い。

・包括へは初期の段階から看取りについての相談が増えている。

・スタッフの健康管理や感染対策など、今では普通になってきた。スキルアップになった。

・室内のリハビリや看護が増えたが、如何に外へ出すかが課題。

・青葉区は多職種の集まりがあまりない。

*** 病院や施設と在宅との連携について**

・退院時カンファレンスの実施や家屋調査、リハビリ見学などコロナ前に戻りつつある。オンラインの活用も継続また今後取り組む計画がある。

・コロナ禍で面会が難しい状況から、自宅へ戻るまたは面会制限の少ない施設へ移る流れが続いている。

・コロナ禍、歯科は敬遠されていた。コロナで引きこもり、マスクの悪影響などオーラルフレイルが進行など悪化してしまったケースからの相談が増えている。歯科受診減。口腔状態改善が課題。今はオーラルケアで忙しい。誤嚥性肺炎予防の口腔ケアが出来ていない。

・交流の場、Zoom やウエビナーなど学びの場が増え参加しやすくなった。顔を合わせることの貴重さを再認識。

*** 地域の変化**

・コミュニティ交通が運航している。

・仕事を持つ、意識の変化などの子世帯の変化により施設の選択が増えている。

・老老介護の世帯が多い。ギリギリまで在宅。地域で見守れる体制が作れると良い。

・意識が高い人が多い。超高齢で元気な人を如何に寝たきりにせず過ごせるか。

・二極化。旅行に行く人が増える一方、コロナに慎重な人もいる。

・ケアプラザの利用率が上がった。体操に来る人も増えた。

・携帯を使える高齢者が増えた。LINE で連絡する利用者もいる。

・外出しない、集団に入らないことで、ADL 低下。外へ出ることが億劫になっている人が多いのではないか。地域でもどうしたら閉じこもりがちの人に外へ出てもらえるか検討している。人と人を繋ぎ活性化して欲しい。

テーマ②変化に対して最近取り組んでいること、始めた事を共有し、参考にする。

***医療・介護サービスの工夫や取り組み**

- ・データ連携システムを入れたいが、区内に利用事業所が少ない。
- ・介護ソフトで連携している。
- ・QOLを高め食べる意欲を持ってもらう管理栄養士の活動。
- ・単発の歯科訪問を開始。嚥下の相談が増えた。
- ・薬が多い方には一包化を勧めている。同じような薬などを減らすことが出来て喜んでもらっている。
- ・老健利用時、健康診断提出要件を緩和した。緊急ケース対応も増えている。
- ・面会制限のため家族が強引に退院させるなど、急な退院が増えている。出来れば週明けに退院して欲しい。
- ・訪看事業所が増えている。
- ・デイでは外出のレクリエーションを始め、外食も実施。
- ・歯科での障害児への関りに力を入れたい。
- ・介護現場に歯科衛生を取り入れていきたい。食べることへのリハビリにもつなげたい。
- ・食メインのデイを始めた。皆で話す、食べるなど交流を大切にしている。

***地域活動への取り組み**

- ・男の料理教室をクリニックで開催。
- ・デイの隙間時間にカフェのような場所を作り、携帯の使い方などを教えている。
- ・地域の活動に参加するようになった。多職種連携や地域連携・貢献に注力したいと考えている。
- ・体操教室、アロママッサージを行っている。
- ・あざみ野商店街は、認知症にやさしい街を謳っている。
- ・地域の方向けのイベント実施。独居の方が多く参加。相続相談実施。高齢男性の食の問題は深刻。
- ・スローショッピング⇒認知症の方が認知症サポーターと待ち合わせ、買い物をする。
- ・自分の身体をまず健康にしていく。自分もクライアントも感染しない身体づくり。
- ・福祉用具では横のつながりがなかったが、連絡会を立ち上げスキルアップや困った時の相談の場とする予定。